

#### 四 常に時代の先を読み

### 新しい日本の土台をきざじた

大隈重信 (一八三八〜一九二三)



大隈重信  
〔「生誕150年記念図録大隈重信」より〕

佐賀市の高伝寺に、「八太郎榎」と呼ばれる枝ぶりのよいどっしりとした大きな榎の木があります。今から百五十年ほど前、この木に一人の甘えん坊で泣き虫の少年がよく登っていました。

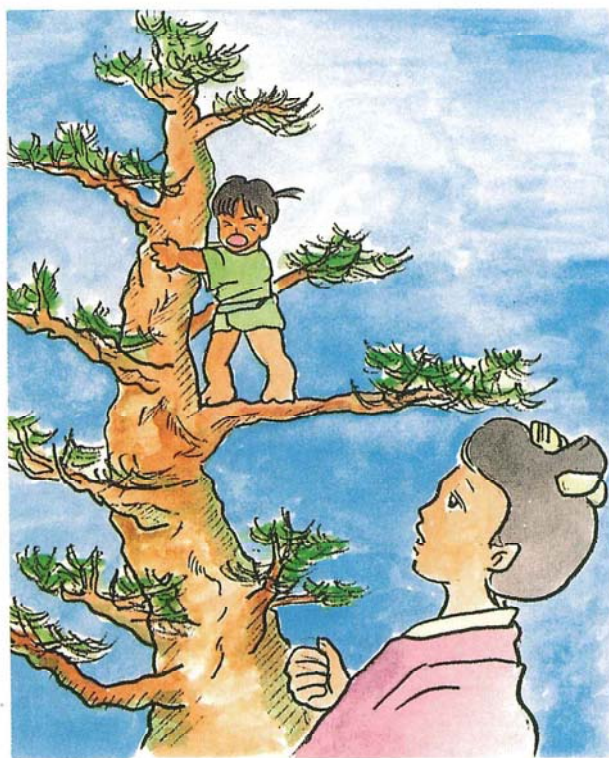
「八太郎。泣き虫ではいけません。強い男になりなさい。」

「・・・」

木の上で少年は力なくうなずきました。この少年の母が、少年の心と体をきたえるために登らせていたのです。

「八太郎榎」というのは、この少年の名前からつけられました。この少年「八太郎」こそ、後に内閣総理大臣として日本の国をみちびき、また、早稲田大学を創立し、多くのすぐれた人を世におくり出した「大隈重信」だったのです。

重信は、天保九年（一八三八）二月十六日、佐賀城に近い会所小路（今の佐賀市水ヶ江二丁目）にある大隈家の長男として生まれました。



八太郎榎に登っている重信とそれを見つめる母



重信の一生の前半は、約二百六十年続いた徳川幕府がたおれ、江戸から明治へと、日本が大きく変わっていった時代でした。また、後半は、日本が新しい国づくりをめざして、外国からすぐれたものをさかんに取り入れ、「外国に追いつけ、追いこせ」とつき進んだ時代でした。

重信は、六歳になると「弘道館」と呼ばれる佐賀藩の学校に通うことになりました。からだは見違えるほど大きくなり、もう泣き虫の重信ではありません。勉強も一生けんめいがんばり、同級生より早く次の勉強をするようになっていました。

※内生寮にも一番で進んで見せます。」  
と重信は、両親に力強く言いました。



母三井子(大隈記念館所蔵 キヨソネ画)

「あの甘えん坊の泣き虫が、こんなにたくましくなって……。」  
母三井子は、うれしきで胸がいっぱいになりました。  
明るく、おおらかで、だれでも分けへだてをすることないあたたかい心の母でした。そして、父信保の死んだ(重信十二歳の時)後は、悲しみをすて、子どもたちのために強く生きた母でした。この母の明るさと強さが、後の大隈重信をつくりあげたと言えるでしょう。



大隈重信の生家(佐賀市水ヶ江二丁目)



長崎時代の重信と仲間たち

「弘道館」で熱心に学ぶ十七歳の重信に、彼の人生を大きく変える出来事が起こりました。重信は、「南北騒動」と呼ばれる事件の中心的な人物として、「弘道館」をやめさせられたのです。その後、やめさせられた者は、全員「弘道館」にもどることをゆるされましたが、「わたしは、もう弘道館にはかえりません。そのかわりに藩の蘭学寮で学ばせてください。」

と重信は、母に自分の決意を言いました。重信には、「だれがかえるか。」という意地もありましたが、それ以上に、「これからの日本には、進歩的な西洋の学問が必要だ。」という考えが強かったのです。

「蘭学寮」でオランダ語を学び、西洋文明にふれた重信は、その政治のしくみなどに感動し、前にもまして蘭学を勉強しました。

しかし、西洋の学問の中に少しずつ英学が入ってきていました。

「よし、これからは英学の時代だ。長崎へ行って英学を勉強するぞ。」重信の思いは、さらに大きくふくらむのでした。

藩主鍋島直正は、重信たちの願いを聞いて、長崎に英学を学ぶための塾を建てました。この塾は、後に「致遠館」と名づけられました。

重信はここでアメリカ人のフルベツキから「アメリカ独立宣言」、「憲法」などを学びました。フルベツキ





早稲田大学大隈講堂(早稲田大学提供)

は、よく二人の優秀な生徒を自慢していました。一人は後に明治政府の外務卿として活躍した副島種臣で、もう一人が重信でした。重信は、常に日本の将来のことを考え、見通しを立てて学び続ける人でした。

明治三年(一八七〇)、三十二歳の重信は参議となり、新しいお金のしくみをつくることや鉄道をしくくこと、毎日使うこよみを太陽暦に変えることなどを進めていきました。これらは近代的な国・日本の土台となるもので、とても大切なことでした。

また、明治十五年、重信は、「東京専門学校」を開校しました。これが今日の「早稲田大学」です。この学校は、「国の独立は、国民の独立による。国民の独立は、精神の独立による。精神の独立は、学問の独立による。」という考えでつくられ、多くのすぐれた人を育て、世に送り出しました。

明治三十一年、重信は、佐賀県出身では初めての内閣総理大臣となり、政府の最高のリーダーとして国のかじ取りを行いました。その後、大正三年にも二度目の内閣総理大臣になっています。

大正十一年(一九二二)一月十日、重信は、八十四歳でこの世を去りました。

失敗し、つまづくことも多かった重信です。しかし、そのたびに雑草のような力強い生命力で立ち上がり、新しい日本のために、困難に立ち向かっていったのです。多くの国民が、そんな重信を愛し、たたえました。

大隈重信は、佐賀の生んだ偉大な政治家であり教育者です。今もふるさとを、そして、日本を見守っていることでしょう。